

教育目標（育成する人材像）

京都芸術大学の建学の精神である「芸術立国」を実現すべく、芸術教養センターは、次の2点をその教育の目標とする。

- ① 本学の全学年の学生を対象として、芸術活動の根源となる、知的・社会的能力、身体感覚に裏づけられた〈創造力〉を涵養すること。
- ② 深い思索力と器と品格とをあわせもつ、〈人間力〉豊かな卒業生を社会へと送り出すこと。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

| | |
|------------|--|
| 探求力 | 世界や社会の状況を広く深く観察し、ねばり強く問いかけを発していくことができる |
| 思考力 | さまざまなものごとに潜む関係性から仮説や課題を発見し、論理的に情報を分析、考察、整理、総合することができる |
| 発想・構想力 | 思考力をもとに問題をさまざまな視点から見直し、真に現代に必要とされる価値を見いだすことができる |
| 表現力 | 言語における表現はもちろんのこと、芸術を学ぶ学生ならではの多様な手段での表現を構想し、他者に向けて的確に発信することができる |
| 行動力 | 人間関係のネットワークの中で、内外に生起する多様な課題を解決すべく、適切なコミュニケーションのための布石を打つことができる |
| 継続力 | 創造的なプロセスを、そこからのフィードバックを的確に捉えながら、結果が出るまで冷静かつねばり強く完遂することができる |
| コミュニケーション力 | 他者と協働し、適切な関係を築くことによって自己の可能性を十分に発揮することができる |

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術教養センターのカリキュラムは、

- ・〈創造力〉〈人間力〉の基礎を形づくる「創造基礎科目」
- ・これからの学習に必要な教養や基礎力を身につける「基礎教養科目」
 - －芸術・デザインを学ぶ基礎を身につけるための学習・表現基礎科目
 - －多彩な知の領域を探求し、創造の視野を広げる応用教養科目
- ・自分自身のキャリアをイメージし、それを現実に変えていく力を獲得する「キャリア創出科目」

の3つの科目群からなっています。

芸術教養センターの教育は全学年・全学科を対象とするものであり、1年生から4年生まで、学士課程における有機的な学習プロセスを重視したカリキュラム構築を行っています。すなわち：

- ① 1年次においては、入学生が、今後4年間にわたり京都芸術大学で積極的な学びを続けることができる基礎力を養うため、「7つの能力」のそれぞれを活性化させる初年次教育を展開する。
- ② 2年次以上においては、特に「芸術教養科目」において、文化学系構想群、人間学系構想群、社会科学系構想群、自然科学系構想群、身体知系構想群、伝統文化系構想群という6つのエリアを全面的に展開することによって、芸術的な創造、造形の根源的な力を養う。
- ③ 3・4年次においては、②に示した各構想群における学びを深めると同時に、学生の多様な希望に応えつつ、卒業後のキャリアデザインを意識しながら、学生の将来の社会参加を積極的に応援する。

■創造基礎科目

初年次教育としてのキャリア、造形表現、教養等の総合的基礎科目です。クリエイティブベーシックとコミュニケーションベーシックは連続した授業構成として、学科を横断して、20クラスに分かれて授業が行われます。クリエイティブベーシックはキャリア基礎学習と学習習慣の確立を含みつつ、学生自身が多様なワークショップという体験の森の中で、自身の主体性の発見と創造のエンジンを起動させます。

さらにその集大成としてコミュニケーションベーシックによって巨大なねぶたをグループで制作することで、コミュニティ作りと持続的な人間力形成を体感します。

クリエイティブベーシック コミュニケーションベーシック

■キャリア創出科目

大学での生活から将来へと続いていくみなさんのキャリアを支えるための科目群です。語学系の科目も、みなさんが社会に出て行くために必要な素養と考え、本学ではキャリア科目の一部として位置づけているほか、みなさんに現実の社会との接点のなかで活躍してもらうプロジェクト演習科目や、キャリアデザインセンターと連携して開講するキャリア対策科目も本科目群に含まれます。また、

「キャリア国語」は、国語力に自信のない方を対象にした選択科目で、日本語の文法や語彙、敬語表現などを今一度ふりかえり、キャリアデザインに役立つように設計されています。各学科で開講される「プロフェッショナル研究」「専門英語」とも連動しています。

キャリアプランニング キャリア対策 プロジェクト演習 英語 キャリア国語Ⅰ・Ⅱ その他の語学

[連携] 専門英語 (各学科で開講) プロフェッショナル研究 (各学科で開講)

■基礎教養科目

基礎教養科目群は、大学での学びの基礎となる、さまざまな「リテラシー」を身につける科目群です。「リテラシー」とは本来、言語能力について言われる言葉ですが、最近では広くさまざまな情報を活用する基本能力という意味で使われます。基礎教養科目群は、大きく「学習基礎」、「表現基礎」、「芸術教養」と三領域に分かれます。

学習基礎

「学習基礎」では、みなさんがこれから大学で学び、さらに社会に出て学び続けるために必要な「ことばとコミュニケーションの能力」、そして、「学び続ける力」を育てていくための基礎を身につけます。

「ことばとコミュニケーション(英語)」「ことばとコミュニケーション(日本語)」では、1年次前期にいずれか1科目を選択して履修します。前者は、高校時代までに英語に苦手意識を持っていた方も、英語でのコミュニケーション能力を実践的に高めるチャンスになるでしょう。後者では、日本語の文章表現の基礎やレポートの書き方・プレゼンテーションの基本とマナーを学びます。

百科学 ことばとコミュニケーション 英会話・Ⅱ・Ⅲ

表現基礎

「表現基礎」は「表現ソフト基礎(コンピュータ)」「デッサン」の二つに分かれます。

「コンピュータ」は、本学での学び、そして社会で活動するに際して必要とされるソフトのいくつかについて基礎的な操作概念と技術を学びます。また、情報社会に必須とされるメールのマナーや、いわゆる「ネットリテラシー」についても考える時間をもちます。

「デッサン」は、視覚的な表現領域に携わろうとする人すべてに役立つ「形の見方・モノの見方」とその表現について実践的に学ぶ授業です。※「コンピュータ」は2023年度開講なし

コンピュータ デッサン

芸術教養

芸術教養科目は、80以上もの授業科目から構成される、巨大な学習エリアです。6つの「科目群」からなる多彩な授業内容が展開されますが、根本的な精神として、「人間が生み出してきた(生み出しつつある)深く広い知の領域を探究する」科目とすることができるようでしょう。

多くの科目の中から関心のあるものを主体的に学んでいくことによって、芸術的な創造と造形の源になる「もの見方・捉え方」「テーマ・コンセプト」をみずから発見・探究できるようになることがこの科目群の目標です。現在活躍中の講師による、もっとも大学らしい「学び」を経験できる授業群です。

(6つの構想群) 文化学系科目 人間学系科目 社会科学系科目 自然科学系科目 身体知系科目 伝統文化系科目

芸術教養科目の6つの科目群について

芸術教養科目は、芸術・アートの世界になんらかの形で関わってゆく上で、必要不可欠な教養科目です。重要な内容が多いので、積極的に、しっかり学んでほしいと願っています。

芸術教養センターでは、多岐にわたる芸術教養科目を6つの分野に分類して提供します。以下にそれぞれの分野について簡単に説明します。

(1) 文化学系科目

文化学系科目は、本学での根幹科目であり、「芸術史」、「芸術・デザイン概論」、「美術論」、「音と芸術」、「文学」などが含まれています。歴史や理論を学ぶことは、今を生きる皆さん自身が立っている位置を知るために必要なことです。講義を聴いて、考え、それを皆さん自身の制作や研究に役立ててください。

(2) 人間学系科目

人間学系科目とは、言語によって人間精神の営みを探求する学問からなる科目群です。「哲学」・「心理学」・「宗教学」を含みますが、言葉を大切に、「人間とは何か」と常に問い続けるという共通点があります。大学生が身につけるべき教養として人間学系の学問はずっと欠かせない地位にありまして、現在、ますます必要とされている領域です。

(3) 社会科学系科目

社会科学系科目は、グローバル化した世界における国家や政治、経済、法律、社会制度等について学び、そのなかで生活する人間のコミュニケーションを扱います。アートが社会のなかでどのような役割を果たせるか、学生も参加しながら考察、議論する授業も含まれます。

(4) 自然科学系科目

本学の自然科学系科目は、主に、人間を含めた生き物の歴史と生態、生き物を含めた地球環境および地球が生み出すさまざまな対象について学ぶ一方、いわゆる理科系の論理的な考え方も身につけます。

(5) 身体知系科目

「芸術」「知」は頭だけ、すなわち脳だけが生み出すものではありません。人間の創造活動・知的活動は、その身体的な次元と深くかかわっています。心身の健康を保ち、身体の声に耳を澄ませ、人間として十全な活動をするために必要な科目群です。

(6) 伝統文化系科目

先人に学び、「現代」と「未来」について考えるための科目群です。和太鼓から料理まで、日本文化が培ってきた芸能や芸道を体験的に知ること、グローバリズムといわれる時代に日本人が生きていく際に必要な「文化力」を養います。